

薬の伝言板

心臓病 心臓病

No.145 2009年 12月
丸子中央総合病院 薬剤部



心臓は生命活動の中核になる臓器であり、そのため心臓は命の要とも言えます。日々絶えず休むことなく動きつづけている心臓。今回は、その心臓の病気についての話です。

《心臓の働き》

心臓は、血液を全身に送ることで、酸素や栄養を運んでいます。心臓が悪くなると、血液をうまく全身に送り出すことができなくなります。そのため、体に水分がたまり、むくみができたりします。

《心臓病の種類》

・虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）

心臓に栄養を送る冠動脈という血管が動脈硬化を起こして、血液の流れが悪くなることによって起こる病気です。症状として、動悸、めまい、息切れ、胸痛、むくみなどがあります。一過性のものが狭心症、冠動脈が完全に詰まったり、狭窄が起こって心臓の筋肉(心筋)が壊死したものは心筋梗塞となります。狭心症の胸の痛みは、普通数分でおさまりますが、心筋梗塞では長い時間つづくこともあります。

・弁膜症

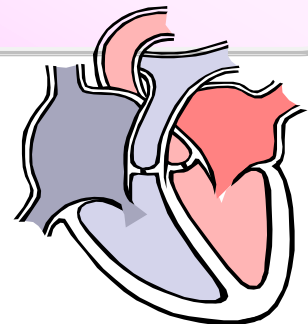
心臓に四つある血液の逆流を防ぐ弁に障害が起きて、心臓に負担がかかることで起こる病気です。

・不整脈

心臓が何らかの原因で不規則に収縮し、心拍数やリズムが乱れた病気です。

・心筋症

心臓の筋肉(心筋)に障害が生じる病気です。



《薬》

◆ 強心薬（ラニラピッドなど）

心臓の収縮を強め、心臓の機能を改善する薬です。

◆ 利尿薬（ラシックス、アルダクトンA、ルプラックなど）

尿量を増加させ、体の水分を外に排出することで、むくみを取り、心臓の負担を軽くする薬です。

◆ 抗不整脈薬（リスモダン、プロノン、メキシチールなど）

脈の乱れを整えて、不整脈を抑える薬です。

◆ 硝酸薬

速効性、発作止め（ニトロペン舌下、ニトロールスプレーなど）

冠動脈を拡げて、心臓の筋肉(心筋)への血液の供給量を増します。それにより、狭心症の痛みをとる薬です。

使い方の注意

- ・舌下で溶かして下さい。（飲んでしまうと効果がありません）
- ・立ったままで使用すると立ちくらみを起こすことがあるため、必ず座って使用して下さい。

持続性錠剤（フランドル、アイトロールなど）

テープ剤（フランドルテープ、ニトロダーム TTS など）

冠動脈や末梢の動脈を拡げることで心臓への負担を軽くし、虚血性心疾患、狭心症発作の予防及び治療に使われる薬です。

◆ 抗血栓薬（ワーファリン、バイアスピリンなど）

血液を固まりにくくし、血栓ができるのを抑える薬です。

《心臓病の予防》

心臓病の主要な危険因子には、高脂血症、高血圧、喫煙、高血糖があります。さらにストレスや肥満も誘因となりえます。

予防には、規則正しい食生活・ストレスの発散・運動不足解消に努めることが大切です。日頃から生活習慣を見直して、予防に心がけましょう。

